

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム 松葉の家		
所在地	静岡県袋井市大野 2730-4		
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成22年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとり自己決定のもとに生活ができ 一人ひとりのペースが守られるよう支援していきたいと心がけている
 また職員は常に黒子であり生活の主体は利用者であることを職員が認識し 利用者が大きくみえるように思っている
 地域においては駆け込み寺的な存在でありたいと考えており、急な入居の受け入れや地域の方々の集いの場となるなどホームを役立てていただけたらうれしく思う

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年の秋で、開設8年目を迎える当ホームは、長い経験と実績を積み重ねて、地域に根差した、信頼の厚いグループホームです。旧浅羽町大野地区の150号線沿いに位置した4階建施設です。1階は同じ法人が運営する通所介護施設で、2～4階で3ユニットが運営されています。開設当初からの管理者で有り、熱い想いを持った館長のもと、各ユニット共、入所者と職員の笑顔がアットホーム的な雰囲気を作っています。「介護に学び介護を楽しむ」理念は、職員に余裕を与え、その余裕が入所者にも好影響を与えています。併設の通所介護施設との交流も利点が多めで有り、系列施設のノウハウも活かされて、今後も益々地域密着型サービス事業所としての展開が期待されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念 「自己決定の支援」 「介護に学び介護をたのしむ」 「地域の駆け込み寺的存在をめざして..」	事業所独自理念は全職員に共有されています。入所者の自己決定意思を尊重し、かつ日々の介護は行き先を閉ざさず、遊び心も取り入れ、余裕を生み出す介護をしています。地域の急な要望にも対処する様にして、理念が実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物等の機会に地域の人達と接する事が出来、また地域の行事にでかけている	積み重ねた地域との交流が有り、公民館祭りや下水道の清掃行事などに積極的に参加しています。又併設の通所介護との関わりの中で近隣との交流を深めています。近所から野菜等の差し入れや、声掛けも有り緊密な関係が保たれています。	地域密着型サービス事業所として、又災害時協力要請としても、地元との関わりは大切です。日頃から地域交流としての諸施策を期待します。一例として、施設内模様し物への招待や近隣住民の内覧会等。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての理解や知識を得るための勉強を地域の方々と一緒にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各評価や、指導をいただいた際には報告や話し合いをし、サービスの質について検討をしている	年5回開いている運営推進会議は、自治会の人や地域包括センターの方、家族の方、職員も含め色々な議題について話し合い、サービス向上に活かされています。議事録も残っています。ただ家族の方の出席は限定的で、今後の課題です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者に報告をし今までにないケースや要検討のケースなど随時相談をしたり、指示を得たりしている	合併した袋井市の介護関係担当部署とは緊密に連絡が取られていて、通達やメールが入ります。又生活保護の人の指示や相談等、日々の困りごととは連絡を入れて、相談しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームに於いてはいかなることがあっても身体拘束はありえないという認識を職員全員がもっている	「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は全職員に認識されていて、身体拘束は有りません。館長の強い思い入れも有り、スピーチロックの問題にも取り組み、言葉かけに留意をしていました。日中の施錠はしていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修等で虐待防止関連法について学び事業所内においても注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	少数の職員については、青年後見人制度の講座等を受講し学んでいるが活用の事例はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の再締結等をおこない、説明をおこなっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画の提示の機会や意見箱の活用を通して意見・要望を頂戴し、また随面会時等にも要望等がないか尋ねている いただいた意見等は随時職員に共有をし、ケアの指針としている 苦情対応を管理している	前年提案を受けて設置した、ご意見箱等の内容や、運営推進会議で出された意見や思いをホームの運営に活かしています。職員が利用者やその家族から聞いた意見や要望は、ユニット会議や職員会議で共有されて、運営に取り入れていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議を設けている	ユニット会議や月1回の職員会議・申し送り等で、得た意見や提案は日々の運営に活かされています。上部への許可は稟議書で仰ぎます。先般は提案された食材の購入方法を変えて、良い結果を得ました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得者には資格手当が与えられるなど、意欲の向上が図られている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に独自の研修システムがあり、段階的に研修を受けることができる 外部研修には勤務の都合上参加できる機会は少ないが介護福祉士会に登録をし各種研修・講座に参加している者もいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の他の事業所の管理者と情報交換の機会があり、その内容等を事業所の職員に報告をしている 職員にも機会があると良いと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用者から発せられた言葉だけではなく、その表情や行動からも利用者の真の思いを感じ取り、それに沿えるように考えながら日々支援にあたっている また、日ごろの思いをさりげなく聞き出すように心がけて		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時の聞き取りの段階で家族のこれまでの思いや今後の要望を聞き取り、また来設時には声掛けをするように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の主訴を把握し、その主訴が叶えられるよう目標を立て、多種多様なサービスを検討をしていく 日ごろのつぶやきに耳を傾けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護をたのしむ」ことを理念に掲げ、一緒に楽しい生活を送ることを実践している また職員は利用者から家事や生活の知恵を教えてもらう場面も多々あり共に支えあう関係作りが行われている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時には、家族とホーム側との双方で本人の支援をしていけるようにと伝え、場面場面相談をかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所付き合いのあった方の訪問をうけている	入所当初は馴染みの人の訪問も多々ありますが、時間の経過と共に減る傾向の様です。馴染みの店への買い物や、お墓の掃除など、本人の思い入れを大切に、家族の協力も得て、関係維持に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	けんかやトラブルの原因を把握し、必要に応じてその解消に努めたり、家事等協力しながらやり遂げ機会を設け利用者同士の関わりを促し、できる方ができない方のお世話を光景を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の生活場所になる施設等に利用中の情報を提供したり必要に応じて面会をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、ホームに対する要望や生活への意向を聞きサービス計画書に反映させている また、生活の中での利用者の真の思いを感じ取り日々の支援にあたっている	理念でもある「自己決定の支援」通り、日頃の生活の中で、つぶやく一言を聞き逃さずに、真の思いや意向を把握しています。一例として、蕎麦打ち経験のある人に、蕎麦打ちを計画したら、生きいきとした楽しい姿が見られた様です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には家庭に訪問をし、生活環境や家庭での様子を知り、サービス提供事業所からの情報の収集もおこなっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の希望を把握し、またできることとできないことを把握することに努めケアに連動させている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時モニタリングは行うが家族の意見が少量になることが多い	入居時に作成するアセスメントに従い、介護計画は作成されています。時に本人とご家族の意見が異なる事もあり、施設におまかせの所が多くなっています。職員間の観察やアイデア、本人・家族との話し合いで、計画は作成されています。	より良い介護サービス提供には、本人やご家族の意見協力が必要です。日頃から密な関係を築き、意見が言いやすい環境を作る、諸施策を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護経過に随時記入をし、毎朝のチェックによる情報の共有に心がけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画においてモニタリングをすることで見直しをおこない常にサービスの変更や新しいサービスの導入をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後は地域資源の再確認をし活用をしていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については家族や本人の意向を聞き、これまでの継続やホームドクターへの移行をきめている いずれにしても主治医への報告は蜜に行っている 受診結果は詳細に記録をしている	基本的にはホームドクターでの受診ですが、本人や家族の希望によりかかりつけ医での受診をサポートしています。日頃のバイタルチェックを伝えることは欠かさず行われています。又健康診断等、健康管理体制が取られていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や症状の悪化等見られた場合は主治医に相談、また家族への相談をおこない早期の受診や検査をおこなっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、またできるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の情報を提供し、入院中には治療の進捗具合等担当の医師や看護師より情報をもらい、退院に向けての受け入れを検討している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の進行に応じて主治医と家族とホームとの間で話し合いを持ち、今後の治療方針や生活の方向やまた他施設への転居等の話し合いを持っている	食事が出来なくなった等、症状の進行により医療に関して事業所として出来る事、出来ない事は説明しています。日頃から本人、家族や医療機関と連携を取りながら、重度化した場合、転居を含めた対処を話し合っています。過去に2件の看取りを経験していました。	最終的な看取りの事は、グループ内施設への転居も有りますが、これからの重度化への過程は避けられません。日頃からの勉強会等、諸対策の確立が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される緊急時の対応(応急処置法)に全員参加をし、講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難誘導訓練は行っているが夜間を想定した訓練は行われていない また地域との協力体制についても具体的には築かれてはいない	札幌市北区の火災例も有って、管理者、職員とも防災危機意識が強く、ホーム内防災訓練や地域防災訓練参加に、積極的です。非常時には特に近隣の協力が必要で、近くの会社寮との協力関係を模索中です。	いつ起こるか分からない災害に対しては、日頃からの備えが大切です。特に夜間の火災に対しての避難方法等、具体的対策を立てておく必要が有ると思われます。近くの会社寮との協力関係を期待致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの関係を構築することが言葉使いに乱れを招いている部分が見られている	その人その人の人格を尊重しての敬語の使い方など、日々工夫をしています。言葉かけには個人差が有りますが、基本的に「敬い」を念頭に話しかけていました。プライバシーが有る記録書類は個人ごとに分け、管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念に掲げているように何事にも利用者自身の意思決定で生活ができるように支援している 意思を尊重することで問題となる点については家族の意向を確認する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務は一日のうちに行われればよいという考え方をし利用者の要望を最優先にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を着て楽しめるように着替えの時には洋服選びを本人と一緒にしている 好みの洋服等を買っていくこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する段階から利用者に参加を促し食への関心を持ってもらい、また準備から後片付けに到るまで利用者が積極的に参加している 利用者が積極的に関わってくれることで家事が円滑にいくことが多い	食事を一緒にさせて頂きましたが、その作る段階から、入所者が厨房に入り、手伝っていました。食事はおいしく、完食する人が多く、キザミ食など個人への配慮も有り、楽しい雰囲気でした。あと片付けには、利用者も積極的に参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量をチェックし量の確保にこころがけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている うがいの方、声掛けと見守りの方、介助の方・・・とその人その人に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	清潔が保たれた生活ができるように排泄の自立にむけて取り組んでいる リハビリパンツから布パンツにかえられるように取り組んでいる	排泄パターンチェック表から排泄パターンを掴み、トイレ誘導が行われていました。日中はリハビリパンツの利用者も、布パンツに変え、排泄の自立が出来た例が有るそうです。排泄の失敗が有っても、焦らず清潔面にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談したり、便秘が解消できるような食物をつかった食事を献立に反映している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月曜日～土曜日の午後に行われ、自己決定にて行われている また、個浴を好む方や仲間での入浴を好む方などそれぞれに対応し楽しい入浴になるよう支援している	各ユニットごとに広いお風呂が有り、仲間同士で入る人や、一人で入る人など、日常的に楽しんでいる様子です。入浴は午後を設定していて、毎日入る人もあり、その人のタイミングに合わせての入浴介助が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の日課等を把握し、それらが継続できるように支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医への連絡を密にし、身体の状況や薬についての理解に努めている 症状の変化に対しても主治医・薬剤師への報告も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とすることや好きなことを把握し、日々の生活の中で力を発揮してもらっている また献立作成時には参加してもらい好きな献立を取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物への希望が多く、スーパーマーケットやコンビニエンスストアに出かけている 家族の意向で家族の思いでづくりのために外出をすることも多い 今後地域の名所等に地域の方々とお出かけしてみたい	近所に公園が無いのは残念ですが、向かいにはコンビニエンスストアが有ります。車で5～6分でいけるマートにも、希望により出かけています。ボランティアの入る仕組みもあるので、ボランティアにお願いしてのサポートも考えています。近くには借りている畑も有り、農作業が楽しめます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の管理は職員が行っているが、買い物際には本人に支払いを行ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用してもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには植物を置き、緑を鑑賞するとともに水分の補給等利用者が積極的におこなえるようにしてある 壁には季節を感じさせる工夫をするように心がけている	共用空間の広さは限定していますが、かえってアットホーム的な雰囲気が有ります。厨房からは全体が見守られます。壁には手作りの作品が飾られて、音楽も鳴り、居心地良いリビングに成っていました。入所者の中には、ハーモニカを吹いたり、大正琴を楽しむ人も居るそうです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはテレビをみてすごしたり、ソファを置いてゆったりと歓談できるように工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む物には制限はなく、本人が使い慣れたものや必要とするものを自由に持ち込むことができる	テレビや冷蔵庫を備えた部屋も有り、その人の使い慣れた生活用品を持ち込んでいました。部屋は明るく、ベットの部屋や直接床に寝具を敷いた部屋など、個人別に対応して、居心地良く過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の戸には自室と解るように工夫をしている		